

会議録

会議の名称	令和3年度第2回行財政改革推進委員会
開催日時	令和4年2月17日（木）午前9時から10時20分まで
開催場所	WEB会議
出席者	委員：横道清孝委員長 原田久副委員長 伊藤俊介委員 鈴木文彦委員 池添弘邦委員 岸本恒久委員 佐藤泰治委員 鈴木研太委員 事務局：保谷企画部長 栗田企画部参与兼企画政策課長 近藤企画政策課長補佐 齋藤企画政策課主任 利根川企画政策課主任
欠席者	なし
議題等	1 開会 2 諮問 西東京市行財政改革推進に当たっての基本方針について 3 議題 (1) 行財政改革大綱の策定に向けたスケジュール (2) 行財政改革の新たな方向性 (3) その他
会議資料の名称	資料1 第5次行財政改革大綱策定スケジュール 資料2 西東京市における行財政改革の基本的な方向性について
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会議内容

開会

会長より開会の挨拶

○事務局：会議の進行の説明

○事務局：傍聴要領に基づき、傍聴人の入室を認めたことの報告

諮問

市長より西東京市行財政改革推進委員会への諮問

「西東京市行財政改革推進に当たっての基本方針について」

議題(1) 行財政改革大綱の策定に向けたスケジュール

- 横道委員長：
議題(1)について、事務局から説明をお願いします。
- 事務局：《資料1に沿って説明》
- 横道委員長：
「行財政改革大綱の策定に向けたスケジュール」について事務局から報告があった。
委員の皆様から意見等はあるか。
- 横道委員長：ないようであれば、説明のあったスケジュールのとおり進める。

議題(2) 行財政改革の新たな方向性

- 横道委員長：
議題(2)について、事務局から説明をお願いします。
- 事務局：《資料2に沿って説明》
- 横道委員長：
「行財政改革の新たな方向性」について事務局より説明があった。
行財政改革の新たな視点等について積極的に意見交換をしたい。
意見等あるか。
- 池添委員：
行財政改革の視点から、魅力ある自治体づくりについてはこれまでの議論にあったと思うが、近隣市と比べ、どこに違いをもたせているのか、前市長と現市長の施政方針の違いからも説明いただきたい。
また、これまでの行革の課題の確認と評価の振り返りについては、どのようなスケジュールで新しい大綱に反映させていくのか確認したい。
- 事務局：
前市長は医師であったことから、「健康」を大きく掲げ政策を実施した。現市長は「次世代への責任ある選択」を基軸に持ち、「子どもがど真ん中」というキーワードを掲げながら政策を打ち出している。「健康」を継承しつつ、「子ども」を中心に据えるという点が特徴であると捉えている。
- 事務局：
これまでの各推進項目については、その進捗の具合や効果額について、次年度第1回目の会議で示したい。
- 伊藤委員：
「学校を核とした地域づくり」について、具体的な施策や計画が進行中なのであれば御教

示いただきたい。

また、特に子育て関連の計画については、即時に結果が得られるわけではなく、経済的効果としても表れにくい性質である。効果額での評価をすることになっているが、どのように測定していくのか。

○事務局：

現在、教育委員会においてコミュニティ・スクールや、学校応援団の取組を行っている。これらは、学校に対する支援だけでなく、地域づくり、顔の見える関係づくりを目的としている。将来地域の担い手の中心となる今の子育て世代が、地域や市にどれだけ関わりを持てるかが焦点である。

行革の効果額が数字で表れにくい分野については、施策の評価や満足度等も指標に加え、効果を測りたい。

○鈴木（文）委員：

経常収支比率をK P Iとした予算策定や、臨財債について両論が記載された財政白書等、他市と比較しても良い点がたくさんある。これらの点を全国自治体の共有財として積極的に情報発信していくべきである。

収納事務におけるデジタル化を進めることで、手数料に係る行革効果が現れるのではないかと。DXの推進に関しては、ネット環境や使用機器をまず整備することが大事である。同時に、音声言語によるコミュニケーションから視覚言語によるコミュニケーションへの移行することにも留意が必要。

SDG sの観点から行革項目を整理するのも良い案ではないか。

○原田委員：

行財政改革について、従来は平時を前提としたものであったと考えるが、コロナ禍を考えると、震災と違い長期にわたり影響が及ぶため、平時と非常時の区別をつけづらく、全ての行政分野に影響がある。このような状況では、より冗長に（余裕を持たせて）対応することが必要であり、その上で柔軟性と強靭性を持たせることが必要であると考えます。

○事務局：

今の状況下では、組織力が問われていると考えている。本市においても陽性者への食糧支援等、全庁体制で行っていることがある。このような非常時で、柔軟性を持つことは非常に大事だと考える。

○原田委員：

非常時という発想をなくすことが大事ではないか。

○佐藤委員：

魅力のある自治体づくりが共通のキーワードだと考える。行財政改革にもSDG sを反映することが大切であり、特定部署ではなく、市全体での情報発信が必要ではないか。SDG s未来都市への参加を検討いただきたい。

DXについては、AIやRPAは手段であり、それらの導入を目的と混同しないようにすることが大切である。特定の部署だけでなく、全庁的に対応する必要がある。

働く世代が西東京市に魅力を感じ、転入してくることで安定的な市の収入増につながると考えることから、長期的なK P Iとして生産年齢人口を設定することもいいのではないかと。

○鈴木（研）委員：

学校を核とした地域づくりについては、教員の不足が叫ばれている今、教員に負担をかけないような取組が必要に感じる。西東京市には大きな産業がないことから、税金を確保しながらも歳出をいかに抑えるかが大事である。住みやすさをどのように具現化することかが大切だと考える。

○事務局：

次期総合計画の策定もあわせて行っており、これと両輪で進めていきたい。

○岸本委員：

行政の種々ある作業の中で、「市民に開かれた行政」、「信頼される透明性のある風土」、「費用対効果が数値化された合理的な事業」が強く求められている時かと考える。

このままではいけないと思う健全な危機感を市民と共有する事が重要であり、については、行政においても広報力強化と、情報発信力の充実を期待する。

○横道委員長：

次期総合計画と行財政改革大綱との関連性について説明いただきたい。

○事務局：

次期の総合計画は、令和6年度を初年度とする10年間の計画である。第5次行財政改革大綱も同じ期間となり、中間見直しを5年目で行う。総合計画に掲げる施策を推進していくため、財政面から支える取組が行財政改革である。今後改定する公共施設等総合管理計画についても大綱による行革効果が影響してくるため、このあたりも考慮する必要がある。

○横道委員長：

10年間でどれだけ行革効果が得られるかも大事だが、どのような課題が見えてくるか、についても議論が必要だと感じる。時代に合わせ、従来型の行革にとらわれない議論が必要。

○鈴木（文）委員：

DXについては、庁内に対する視点と、市民に対する視点とがある。庁内におけるDXはどれだけ進んでいるか。

収納会計について、指定金融機関の手数料の増額への対応はどのようにしたのか。

○事務局：

庁内と同じ環境下で在宅勤務ができる環境は整えている。一方でWEB会議等、発展途上な部分があり、機材や設備の点で課題がある。指定金融機関との間の手数料の問題については現状維持であると伺っている。

○池添委員：

人材育成基本方針での求める職員像を挙げていただいているが、これらが挙げた経緯は何か。これまでの反省や振り返りから作ったものか、現状での「優秀な職員」を例に、全職員がここを目指していくものなのか。特定の分野に秀でたブレイクスルー人材の必要性が高まっており、職員の採用方法に取り入れるのも良いのではないか。

○事務局：

本方針の策定の背景についてはこの場では分からない。地域の中に職員が飛び込み、地域とともに活動ができる職員が求められていると感じる。

○池添委員：職場の風通しを良くし、自由に意見交換ができる環境を作る、そのような試みが大事ではないか。

○佐藤委員：

DX人材の育成について、ヒューマンスキルだけでなくテクニカルスキルやビジネススキルを向上させる取組が大切である。DXの推進は、行革の大綱のフレームワークとは別のところで進めていくことが必要であり、そのための風土づくりが必要であると感じる。

○事務局：

来年度にDXを担当するの部署を設置する予定がある。デジタルスキル等については、外部の力を取り入れることも必要だと考えている。

○佐藤委員：

一部の職員だけでなく、全ての職員の意識の改革や底上げが必要だと考える。

○鈴木委員：

DX人材といっても単にパソコンが得意、統計が得意、AIに強いだけでなく、主体性をもって、戦略的に働ける人材の配置も必要だと思う。

議題(3) その他

○横道委員長：

議題(3)「その他」について、事務局から何かあるか。

○事務局：

今年度の委員会は今回で終了し、次回の委員会の開催日程は、5月頃を予定している。

○横道委員長：

これで令和3年度第2回行財政改革推進委員会を閉会する。

《閉会》